

# 岡山大学乳がん治療・再建センター 設立要旨

乳がん手術療法は乳房温存療法が60%と最も多く、高度進行例や広範進展例に対しては乳房切除術を施行していますが、最近ではより整容性を求めた手術療法、すなわち内視鏡下手術や乳房再建手術も求められてきています。

このような背景から整容性も考慮した手術が必要となり、今回、岡山大学病院乳腺・内分泌外科と形成外科との共同により、乳がん患者のQOLを考慮した手術、すなわち乳房切除術とともに一次的あるいは二次的な乳房再建術をスムーズに行う乳がん治療・再建センターを立ち上げたいと考えました。特に形成外科が行っている血管吻合を伴う遊離脂肪弁による乳房再建術は美容的に大変優れていますが、本邦で施行可能な施設は当院を含めわずか3,4施設と限られており、中国四国地区では当院のみとなっています。また乳腺外科と形成外科が一体となってセンター化している大学は本邦では無く、院内外にアピールすることにより、中国四国の拠点病院になり得ると考えています。患者様にとっても外来受診当日に乳腺外科、形成外科の両方の受診を可能とし、手術も転棟せずに行うことができるのは非常に大きなメリットになると思われます。さらに入院日数の減少、症例数の増加が期待できるので病院経営にも貢献できると考えています。

## 目標

乳がん患者さまに対して総合的な乳がん医療、すなわち科学的根拠に基づいた診断、治療さらに整容性を求めた乳房再建術を行うことにより中国四国地区の拠点病院を目指す。

## 基本方針

- ・ 患者中心の医療を行うため患者の価値観を配慮した医療を行う。
- ・ 科学的根拠に基づいた診断、手術、薬物療法を安全に行う。
- ・ 患者が満足する良好な整容性を持った乳房再建を行う。
- ・ 長期観察による整容性、QOLの評価を行う。
- ・ 医師、コメディカル一体となってチーム医療を実践する。
- ・ 地域の医師、他施設との連携をとり、病診連携を推進する。
- ・ 乳がん医療を通して癌看護認定看護師や癌専門薬剤師を教育する。
- ・ 乳腺医療を目指す研修医を総合的に教育する。

## 構成スタッフ

\*センター長 土井原 博義 (乳腺・内分泌外科)

\*副センター長 木股敬裕 (形成外科)

松岡順治 (乳腺・内分泌外科)

### \*乳腺・内分泌外科

科長 土井原博義

副科長 松岡順治

助教 平 成人, 枝園忠彦

### 形成外科

科長 木股敬裕

助教 徳山英二郎

\*コ・メディカル 看護師 (病棟・外来), リハビリテーション部

## 診療の特徴

1. 外来における患者サービスの改善と情報提供：患者さまへのスムーズで無駄のない診療の提供を目的として、別紙資料の外来マニュアル“外来の流れ”を合同会議にて作成、即日に形成外科を受診し乳房再建に関する情報を得ることが可能となる。患者さまは早期から治療の選択肢に関する情報を得ることができ、判断に要する十分な時間と豊富な情報を得ることが可能となる。
2. 入院における医療の効率化：乳癌手術と再建、特に一期的再建時に使用可能な、クリニカルパスを合同で作成・導入する。また、両診療科間での病床の共有化により、病床の有効活用と稼働率改善が見込まれる。
3. 社会に対する情報提供と新たな乳癌診療のモデル化：現在、患者さま用の診療パンフレットと一般向けのホームページを作成しており、内外への情報提供を充実させる。本邦において、大学病院では乳房再建まで含めたセンターは存在せず、患者のニーズを重視した新たな乳癌診療モデルとして全国にアピールし、この領域の牽引施設としての役割を果たす。

## 教育面での特徴

近年 cancer survivor の概念が注目されつつある。乳癌は比較的予後が良好な癌腫であり、今後、乳癌治療に従事する医療者が求めるべきものは、患者の治癒のみでなく、高い QOL を維持した治癒である。乳房再建を単なる整容的な改善と捉えることなく、その人の全人的サポートの一環として捉えるべきである。

1. 全人的サポートの意識を有するスタッフ育成：合同カンファレンス、症例検討会を通じ、そこに携わる医療者は治療的な側面のみならず、患者さまの社会的背景、ニーズを意識する機会を得ることとなる。このことにより、全人的サポートの意識を有する医療者の育成機会を得ることが可能である。
2. 専門医、専門コメディカルの育成：本センターの設立に関わるスタッフは、いずれも各分野の expert であり、専門医、専門コメディカル育成の機会と経験の提供が可能である。ここで学ぶ医療者は、センターで乳癌治療から再建までの過程を途切れることなく学ぶことが可能である。

## 研究面での特徴

1. 乳癌治療における乳房再建の安全性評価：乳房再建そのものが、乳癌の治療成績や局所再発に及ぼす影響の研究は皆無である。科学的な根拠の確立のため共同研究を予定している。
2. 乳房再建の普遍的な整容性・QOL 評価方法の確立：現在、乳癌術後の整容性やこれに関わる QOL の普遍的な評価方法や評価基準は存在しない。乳癌治療後の整容面や QOL には乳房再建のみならず、化学療法、ホルモン療法も大きな影響を及ぼす。両診療科やコメディカルの協力によりこの分野の研究の進展が可能となる。

上記を充実させることにより乳癌医療の中四国の拠点病院を目指し、質の高い医療を安全に行い、さらに地域への研修や情報提供により地域医療の質の向上に貢献したいと考えています。